



OR 手法マニュアル



OR 手法

BIC では、様々な手法を用いて短期的に有利にゲームを進めるのが特徴ですが、OR 手法についてはシュート内の全体的な流れを利用して、15～40ゲームほどかけて、勝ち負けを繰り返しながら比較的大きな利益を一度に取っていく手法になります。

下記は OR 手法の過去検証結果になります。

[OR 手法過去検証結果] 2017/04～2017/07 の 4 カ月間のデータ

966 戦 711 勝 255 敗

勝率：73.6% (勝率は 1 台当たり)

過去最大連敗数：4 回

平均利益：8.46p

平均損失：22.03p

ペイオフレシオ：0.384

合計損益：**+397.41p**

[システムベッティング法のおさらい]

OR 手法は比較的長く同じ台にとどまりゲームを行います。

システムベッティング法のマニュアルにある通り、1 p からスタートし負けたら1 p ずつ足していきます。

	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目	6 回目	7 回目	8 回目	9 回目
勝敗	負け	負け	勝ち	負け	勝ち	勝ち	負け	負け	負け
賭け金	1 p	2 p	3 p	2 p	3 p	2 p	1 p	1 p	1 p
損益	- 1 p	- 3 p	± 0 p	- 2 p	+ 1 p	+ 3 p	+ 2 p	+ 1 p	± 0 p
	10 回目	11 回目	12 回目	13 回目	14 回目	15 回目	16 回目	17 回目	18 回目
勝敗	負け	負け	勝ち	勝ち	勝ち	負け	負け	勝ち	勝ち
賭け金	1 p	2 p	3 p	2 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p
損益	- 1 p	- 3 p	± 0 p	+ 2 p	+ 3 p	+ 2 p	+ 1 p	+ 2 p	+ 3 p

上記は、18 戦9 勝9 敗（勝率50%）の取引結果ですが、勝率が50%でも3 p のプラスになっています。

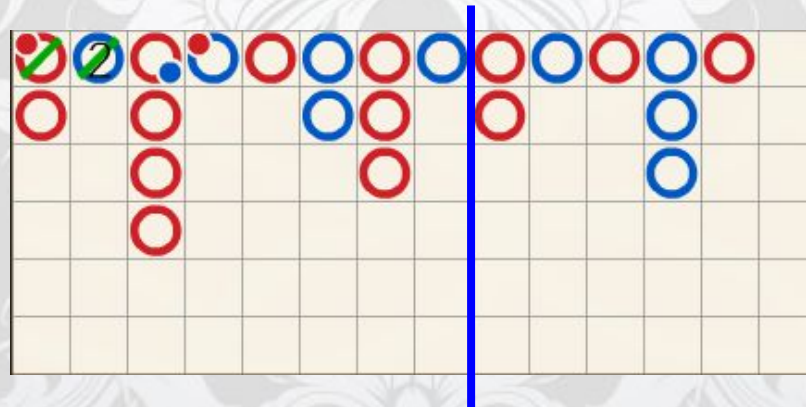
5 回目でプラスに転じていますが、掛け金が1 p に戻るまでは通常通り、勝ったら1 p 減らします。6 回目も勝って+ 3 p になり、賭け金も1 p に戻りましたのでその後は、損益がマイナスになる10 回目までフラットベット（1 p 賭けを続けること）となります。

10 回目で損益がマイナスとなりましたので、11 回目からはフラットベットを解除して、通常通り負けたら賭け金を1 p ずつ上げていきます。この繰り返しになります。

OR手法は、プレイヤーとバンカーの偏りを利用したもので、KT手法と同じく台に入る前にチャンス台を選んでいくところから始めます。

[チャンス台条件]

シュートの最初から15ゲーム分で判断します、タイは数にカウントしません。



15回目の時点でバンカー10回
プレイヤー5回の偏りのある台

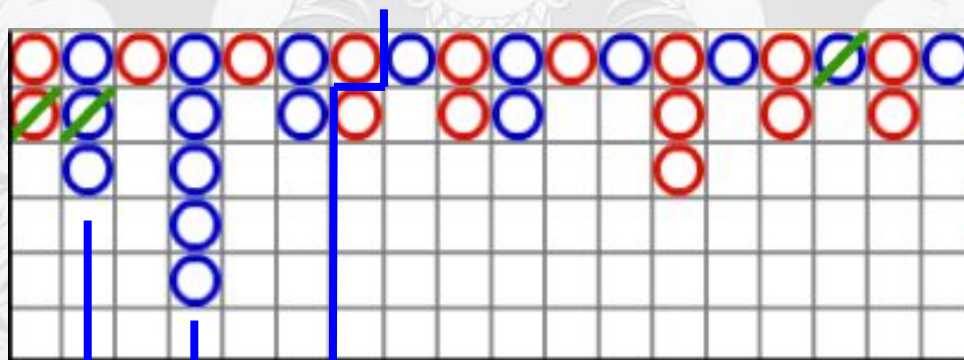
①プレイヤーとバンカーの偏りが9：6以上あること

※上記の台は、10：5でバンカーが優勢ですので条件クリアとなります。

バンカーかプレイヤーが、シュートの最初から数えて合計15回出現した時点の比率（偏り）を見ます。

15回目（青ライン）までに、タイが3回出現していますが数には入れません。

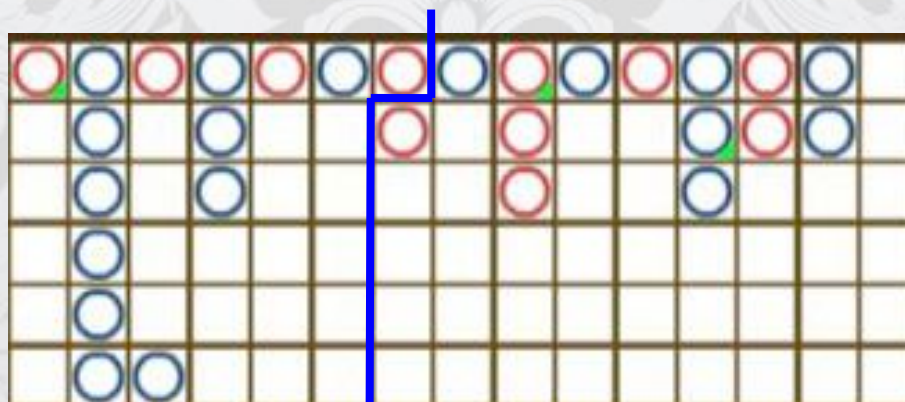
②偏りが強いほうに、3連続以上と4連続以上がそれぞれ1本ずつあること



15回目の時点でプレイヤー10回
バンカー5回の偏りのある台

プレイヤー3連続が1つ、プレイヤー5連続が1つありますので条件クリアです。

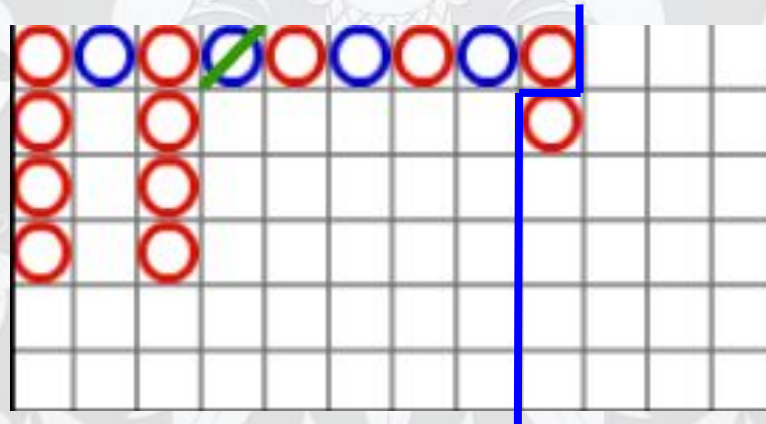
③15回目までにドラゴンが発生していないこと



15回目の時点でプレイヤー11回
バンカー4回の偏りのある台

※上記の台は、条件①の偏りはクリアしていますが、プレイヤーのドラゴンが発生していますので回避する台になります。

④偏りが強いほうにツライチ（連続が同じ数）が発生していないこと



15回目の時点でバンカー11回
プレイヤー4回の偏りのある台

バンカー4連続が2個（ツライチ）発生しているので、回避する台になります。

⑤偏りが弱いほうに3連続が発生していないこと



15回目の時点でバンカー9回
プレイヤー6回の偏りのある台

※上記の台は、バンカーの偏りが強くプレイヤーが弱いですが、偏りの弱いプレイヤーに3連続が発生しているので、回避する台になります。

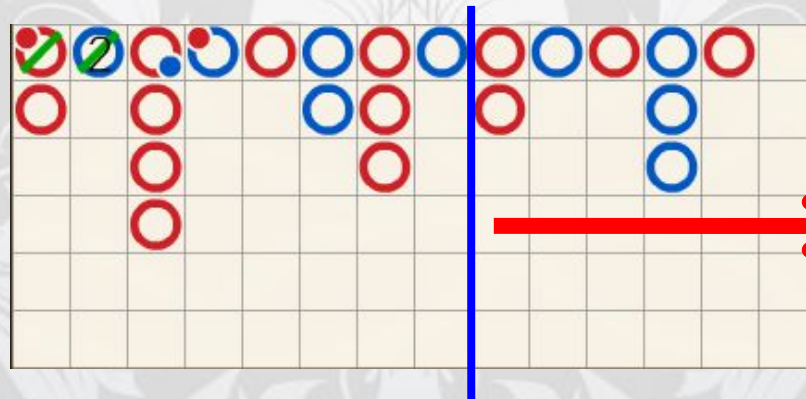
OR手法のチャンス台を見つけたら、下記のルールに従ってゲームを進めていきます。

[ルール1]

偏りが強い方のみに賭けていく

例えばプレイヤー10回、バンカー5回出現した台の場合は、16回目以降からプレイヤーオンリーで賭けていきます。

下記のような、バンカーが10回、プレイヤーが5回という台の場合は、16回目以降からバンカーオンリーで賭けます。



バンカーオンリーで
16回目以降から
賭けていきます。

[ルール2]

利食い10p

損切り20p

その時の賭けるポイントによって、例えば含み益が8pある状況で次に賭けるポイントが3pで勝った場合、利食いルール10pを超えて11p勝ちとなったり、逆に含み損が

17pある状況で次に賭けるポイントが5pで、負けた場合は損切りルール20pを超えて、22pの負けとなるという具合に、状況によって利食い、損切りポイントを超える場合もあります。

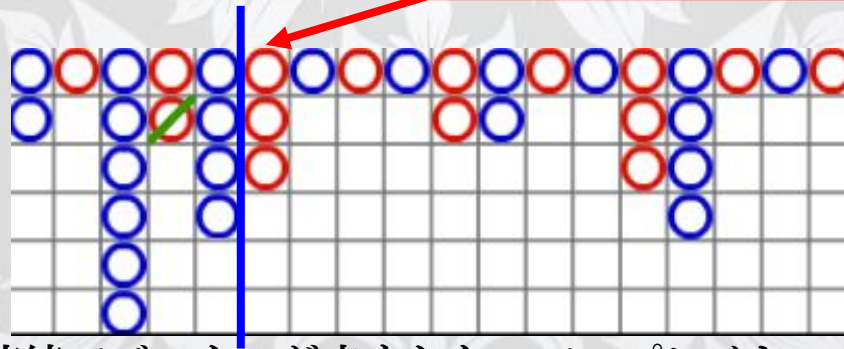
[ルール3]

LOOK を利用する (3連続の場合)

・プレイヤーオンリーの場合

プレイヤーオンリーで、ゲームを進めているときにバンカー3連続 (3連敗) が来た場合、次に1回プレイヤーが来るまでLOOK (賭けずに様子見) する。

●●● → ● プレイヤーが1回来るまでLOOK



16回目から
プレイヤーオンリー

上記では、16回目から3連続でバンカーが来ましたので、プレイヤーが1回来るまでLOOKです。バンカー3連続のあとすぐにプレイヤーが1回来ましたので、次にプレイヤーで賭け始めます。

16回目	17回目	18回目	19回目	20回目	21回目	22回目	23回目	24回目	25回目
B	B	B	P	B	P	B	B	P	P
負け	負け	負け	LOOK	負け	勝ち	負け	負け	勝ち	勝ち
1 p	2 p	3 p	LOOK	4 p	5 p	4 p	5 p	6 p	5 p
-1 p	-3 p	-6 p	LOOK	-10 p	-5 p	-9 p	-14 p	-8 p	-3 p
26回目	27回目	28回目	29回目	30回目	31回目	32回目	33回目	34回目	35回目
B	P	B	B	B	P	P	P	P	B
負け	勝ち	負け	負け	負け	LOOK	勝ち	勝ち	勝ち	負け
4 p	5 p	4 p	5 p	6 p	LOOK	7 p	6 p	5 p	4 p
-7 p	-2 p	-6 p	-11 p	-17 p	LOOK	-10 p	-4 p	+1 p	-3 p

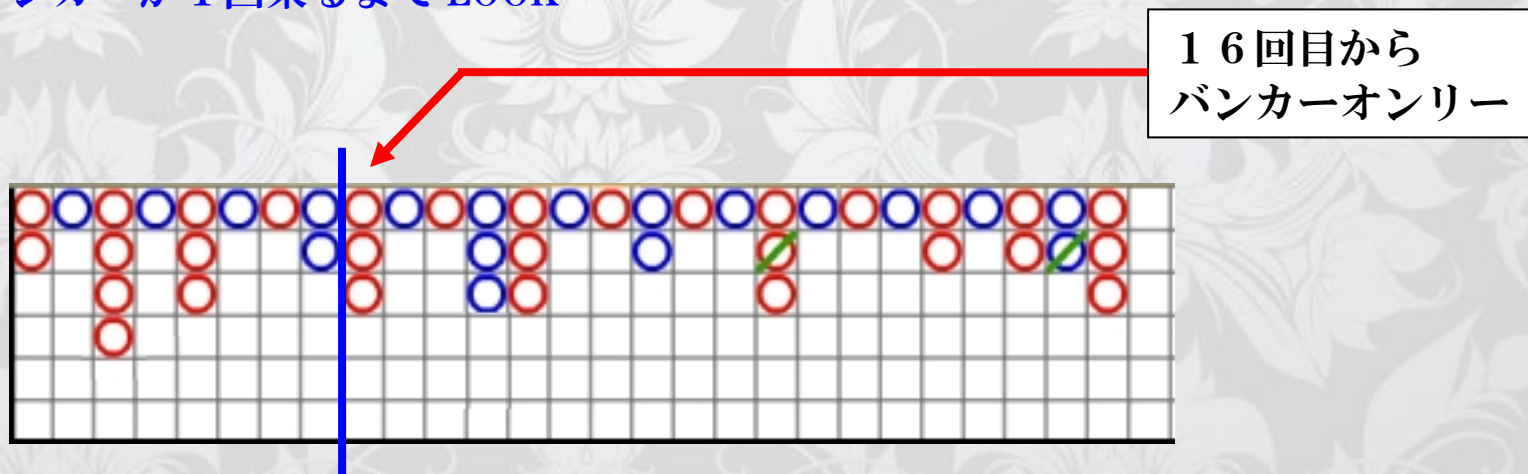
また、16回目に既にバンカー2回目連続が来ていた場合などは、バンカー3回連続きた時点でLOOKします。

つまり、プレイヤーオンリーの台の場合に、バンカーが3連続できた場合はプレイヤーが1回くるまでLOOKと覚えて下さい。

・バンカーオンリーの場合

バンカーオンリーで、ゲームを進めているときにプレイヤー3連続が来た場合、次1回バンカーが来るまでLOOK（賭けずに様子見）する。

●●● → ● バンカーが1回来るまでLOOK



21回目から3連続でプレイヤーが来ましたので、次にバンカーが1回来るまでLOOKです。プレイヤー3連続のあとすぐにバンカーが1回来ましたので、次からバンカーで賭け始めます。

16回目	17回目	18回目	19回目	20回目	21回目	22回目	23回目	24回目	25回目
B	B	B	P	B	P	P	P	B	B
勝ち	勝ち	勝ち	負け	勝ち	負け	負け	負け	LOOK	勝ち
1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	LOOK	1 p
+1 p	+2 p	+3 p	+2 p	+3 p	+2 p	+1 p	±0 p	LOOK	+1 p
26回目	27回目	28回目	29回目	30回目	31回目	32回目	33回目	34回目	35回目
B	P	B	P	P	B	P	B	B	B
勝ち	負け	勝ち	負け	負け	勝ち	負け	勝ち	勝ち	勝ち
1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p
+2 p	+1 p	+2 p	+1 p	±0 p	+1 p	±0 p	+1 p	+2 p	+3 p

このように、ある程度前半に勝ちが偏るとBETするポイントがフラットベットになるのが特徴です。上記はバンカー11回プレイヤー9回でバンカーの数が若干多くなっており、最大含み益はプラス3 pとなっています。

[ルール4]

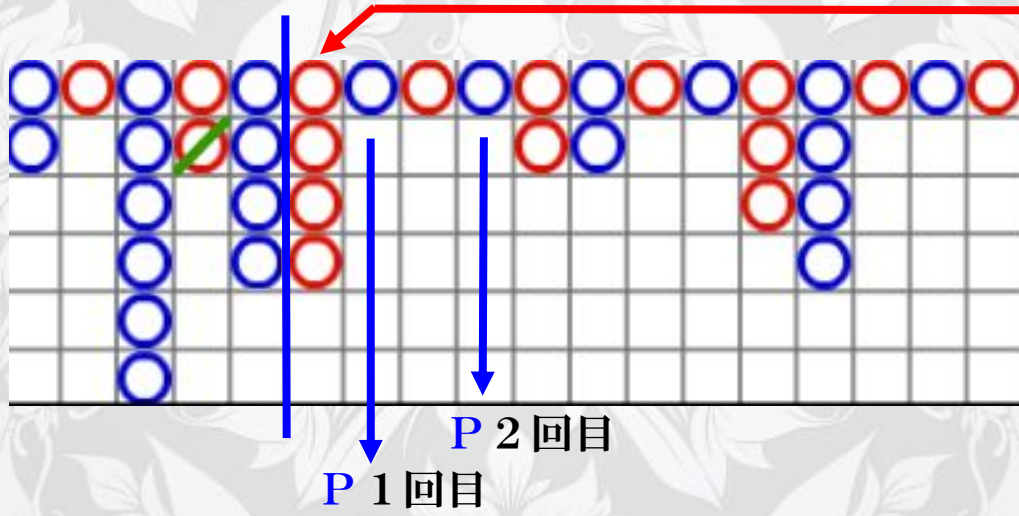
LOOK を利用する（4連続の場合）

・プレイヤーオンリーの場合

プレイヤーオンリーで、ゲームを進めているときにバンカー4連続（4連敗）が来た場合、次に2回プレイヤーが来るまでLOOK（賭けずに様子見）する。

●●●● → ●● プレイヤーが2回来るまでLOOK

16回目から
プレイヤーオンリー



16回目から4連続でバンカーがきたので、次にプレイヤーが2回くるまでLOOKです。
 プレイヤー2回というのは、2連続という事ではなく合計2回くればOKです。
 ここでは、バンカー4連続のあとすぐにプレイヤーが1回きましたが、次はバンカーでした。
 その次に再度プレイヤーがきましたので、合計2回プレイヤーとなり23回目から
 プレイヤーに再び賭け始めます。

※バンカー4連続の場合でも、実際に賭けるのは3回までで以降は全てLOOKとなります。
 バンカー5連続がきても、バンカードラゴンがきても賭けるのは3回まであとはLOOKです。

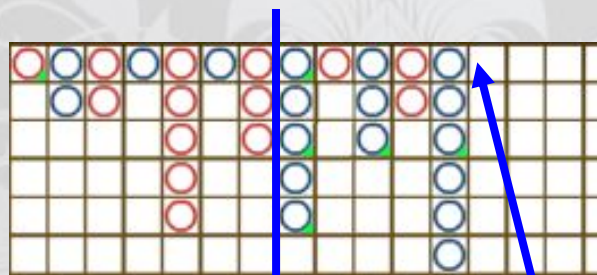
16回目	17回目	18回目	19回目	20回目	21回目	22回目	23回目	24回目	25回目
B	B	B	B	P	B	P	B	B	P
負け	負け	負け	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	負け	負け	勝ち
1 p	2 p	3 p	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	4 p	5 p	6 p
-1 p	-3 p	-6 p	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	-10 p	-15 p	-9 p
26回目	27回目	28回目	29回目	30回目	31回目	32回目	33回目	34回目	35回目
P	B	P	B	B	B	P	P	P	P
勝ち	負け	勝ち	負け	負け	負け	LOOK	勝ち	勝ち	勝ち
5 p	4 p	5 p	4 p	5 p	6 p	LOOK	7 p	6 p	5 p
-4 p	-8 p	-3 p	-7 p	-12 p	-18 p	LOOK	-11 p	-5 p	±0 p

16回目	17回目	18回目	19回目	20回目	21回目	22回目	23回目	24回目	25回目
P	P	P	P	P	P	B	P	B	B
負け	負け	負け	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	勝ち
1 p	2 p	3 p	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	4 p
-1 p	-3 p	-6 p	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	LOOK	-2 p
26回目	27回目	28回目	29回目	30回目	31回目	32回目	33回目	34回目	35回目
P	P	B	P	B	B	P	B	P	B
負け	負け	勝ち	負け	勝ち	勝ち	負け	勝ち	負け	勝ち
3 p	4 p	5 p	4 p	5 p	4 p	3 p	4 p	3 p	4 p
-5 p	-9 p	-4 p	-8 p	-3 p	+1 p	-2 p	+2 p	-1 p	+3 p

上記はバンカーオンリーの台で、16回目以降バンカー8回プレイヤー12回の台です。プレイヤーの数が多いですが、35ゲーム目では+3 pとなっています。

・特殊な LOOK 例について (プレイヤー・バンカーオンリー共通)

劣勢側に4連続以上が出た場合、2回 LOOK とありましたが、例えばプレイヤーオンリーの台でバンカー4連続がきた後、プレイヤーが1回しかこなくて、またバンカーが3連続以上になった場合は、再度2回プレイヤーが来るまで LOOK となります。



ここから開始

左はバンカーオンリーの台ですが、開始後すぐにプレイヤー5連続が来ています。その後すぐにバンカー1回は来ましたが再びプレイヤーが3連続来ました。これで、バンカー1回はリセットとなり、再度バンカー2回来るまで LOOK となります。ここでは、27回目からバンカーで再度賭け始めます。

[裁量を加えた精度アップの方法]

OR手法は、プレイヤーとバンカーの偏りを利用して比較的長い間台にとどまり大きく利益を取りに行く手法になります。

当然1回の利益が大きくなるという事は、1回の損失も増えることになります。ですので、下記は台の流れを読み取りながら、裁量で大きな損失を避ける方法になります。この方法は、大きな損失を防ぐことを主体としておりますので、必然的に利益も減ります。そこを理解していただいた上で、実施して下さい。

[裁量を加えた場合の過去検証結果] 2017/04~2017/07の4カ月間のデータ

966戦 682勝 284敗

勝率：70.6% (勝率は1台当たり)

過去最大連敗数：5回

平均利益：5.41p

平均損失：11.12p

ペイオフレシオ：0.4865

合計損益：**+531.54p**

短い時間でより効率的に立ち回る為に、動画配信では裁量を加えております。

[裁量方法]

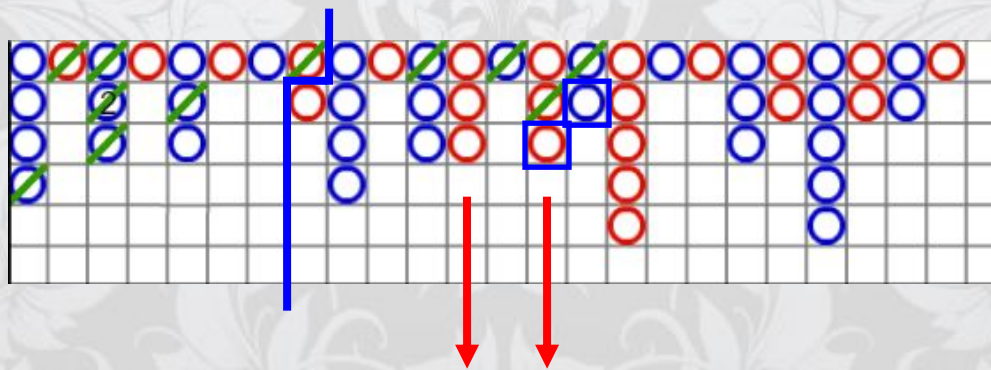
裁量で特に重要なのは、台の流れを読むことにあります。
OR手法の裁量方法として、2点の裁量提案します。

台の流れを読む

プレイヤーオンリーでOR手法を行っている場合、開始直後はバンカー2連続以下しか発生していません。

バンカー3連続以上が2回発生した場合は、台の流れがバンカーに傾いてきたと考えます。その際に、含み損の場合はプラテンしたらすぐに台を離れます。

また、プラテンしそうな所で再度マイナスとなり揉みあった場合、なるべく±0 pに近づけて損切りします。裁量において小さい単位で損切りするのはとても重要です。



バンカー3連続が2つ出現！

上記の例では、最初プレイヤーが連続して出たものの、途中からバンカーが3連続×2回、その後さらにバンカー5連続が来ています。□が、裁量で台を離れるポイントです。

16回目	17回目	18回目	19回目	20回目	21回目	22回目	23回目	24回目	25回目
B	P	P	P	P	B	P	P	P	B
負け	勝ち	勝ち	勝ち	勝ち	負け	勝ち	勝ち	勝ち	負け
1 p	2 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p	1 p
-1 p	+1 p	+2 p	+3 p	+4 p	+3 p	+4 p	+5 p	+6 p	+5 p
26回目	27回目	28回目	29回目	30回目	31回目	32回目	33回目	34回目	35回目
B	B	P	B	B	B	P	P	B	B
負け	負け	LOOK	負け	負け	負け	LOOK	勝ち	負け	負け
1 p	1 p	LOOK	1 p	1 p	1 p	LOOK	1 p	1 p	1 p
+4 p	+3 p	LOOK	+2 p	+1 p	±0 p	LOOK	+1 p	±0 p	-1 p

25回目からバンカー3連続が来た時点で、流れが変わってきたかも？と、考えて下さい。

29回目から再度3連続バンカーが来た後、裁量での早期撤退を決めます。

(プラテンして直ぐ撤退するか、少しのマイナスで撤退するか)

※慣れないうちは、少しのマイナスで損切りをしたほうが安定します。

裁量で逃げる場合は31回目の3連続を引いた時点で±0 pの時か、1回LOOKを挟み33回目で+1 pになった時点で勝ち逃げします。

その後、結果論としてプレイヤーが多く出現して利益の取りこぼしとなりますが、裁量を加える理由として、最も重要視するのはマイナスを抑えるという事にあります。

マイナスを抑えるという事は、その後の利益を取りこぼす可能性もあるという事を理解下さい。

ゲーム数を見る

もう一つの裁量方法として、ゲーム数にあります。

バカラは、ケースに入っているトランプのデッキ数と、ゲームの展開（2枚ひくか、3枚ひくか）によってある程度ゲーム数が決まってきます。

おおよそのゲーム数は、60～75ゲームとなっております。

また、長期的に見るとバンカーとプレイヤーの比率は約50：50となっている為、長期間どちらかに偏ったままゲームが進むことは無いという前提の上、裁量を行います。

下記は、過去320シュートにおけるバンカーとプレイヤーの傾きを検証したものです。

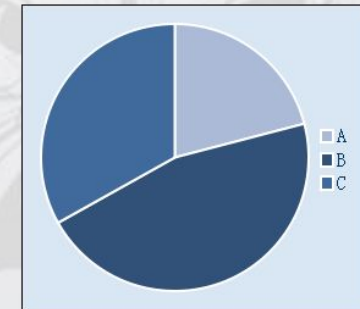
バンカーもしくはプレイヤーのどちらかが10個以上偏ったままシュートを終えたゲームがかなり少ないのは一目瞭然です。

[320 シュートのデータ]

A.シュートの終わりまで10回以上偏りがある台：67回

B.シュートの終わりまで5回以上偏りがある台：147回

C.シュートの終わりまで偏りが5回未満の台：106回



このデータを見ますと、始めに偏った台がそのままシュートの終わりまで行くというケースは、かなり少ないのがわかります。

また、始めに偏りがあった台は徐々にその偏りが無くなっていきますが、大よそゲームの中間地点位（35～40ゲーム）から、偏りが逆転していきます。

このことから、ゲーム数判断にて次ページのような裁量を取り入れます。

35～40ゲームを過ぎてもプラスがわずか（1～3 p程度）で、ゲームを開始してからプレイヤーもしくはバンカーが連続して出る事があまりない場合、後半もダラダラする展開が予想されるため、早めに切り上げる。

また、35～40ゲームを過ぎた時に含み損（マイナス圏）だった場合は、プラテンするか展開が良くなければ（負けが多い）±0 pになるべく近づけて損切りする。

これらの裁量をゲームに加える事は、確実にゲームが有利になるという根拠はないものの、裁量を加えた時の過去検証結果が物語っている通り、バカラにはゲームの流れが存在しているのが分かります。

裁量を入れたほうがOR手法の場合、過去成績が上がっています。

1回当たりの損失も減りますので、連敗時のメンタルへの影響が少なくなるという特徴があります。

是非一度、ご自身の目で裁量と無裁量を比べてみて、どちらが自分のスタイルに合っているのかを精査した上で、実施してみてください。

